

## 新1年生

全道の高校では、4月9日が入学式というところが多いと思います。

私のところにも幾つかの学校から入学式へのご案内をいただきましたが、身は一つしかありませんので、北海道高等盲学校の入学式に出席して来ました。

私は昨年から、高等盲学校の教育振興会会長を仰せつかっていることもあり、本校の入学式に出席することを楽しみにしていたところです。

今年の新入生は、普通科が9名、専攻科の保健理療科が2名、同じく理療科が11名となっており、全体でも22名という規模ですので、入学式そのものはコンパクトなものでしたが、生徒達によるブラスバンドの演奏で入場した新1年生の表情からは、緊張した中にもこれからの学校生活への期待が込められているように感じられました。

北海道高等盲学校は、1974年4月に札幌盲学校から高等部を分離独立させて開設された、道内で唯一の高等部単置の盲学校です。

北海道高等盲学校では、一人一人の様々な目の障がいに応じた教育、及び支援を行うことを目標に教育活動が展開されています。

校訓は、明朗・友愛・健康・忍耐とあります。校訓に忍耐とあるのは、視覚障がい者の置かれている環境の厳しさを象徴するものであり、試練に堪え忍び、自立への道を歩んで欲しいという願いが込められているのではないのでしょうか。

また、北海道高等盲学校には、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師を養成するための職業教育課程として専攻科が開設されていますが、この専攻科の対象は本校普通科はじめ高校を卒業した方（若しくは同等以上の学力を有する方）とされていますので、本校は、高校生から大人までが同じ学舎で学ぶという大変ユニークな学校となっています。

更に、北海道高等盲学校には、1994年以来、理療研修センターが併設されていますが、当センターは北海道における理療教育の充実、視覚に障がいのある理療従事者の資質向上などに取り組むと共に、実践教育の一環として、一般の方々にあん摩・マッサージ・指圧・はり・きゅうによる治療を行っていま

す。

このように、北海道高等盲学校は、修学後までを視野に入れた教育システムを取っていますが、現在、道教委においては、これまでの教育システムを更に発展させるため、修学前から修学後まで一貫した教育を行うための総合盲学校の整備に取り組んでおり、その完成が待たれます。

新1年生の皆さんには、いよいよ今日から学園生活が始まりますが、決して楽しいことばかりではないと思います。辛いこと、苦しいこともあるでしょう。しかし、「眉上げて真理究めん」と校歌にあるように、将来の自立に向けてしっかりと学び、成長して欲しいと思います。

そして何よりも、学園生活の3年間は、良き師、良き友と巡り会い、実り多いものとなりますよう祈って止みません。(塾頭 吉田 洋一)